

▶ 環境コミュニケーション

環境情報をどのように発信していますか？

JR東日本グループでは、Webや社会環境報告書、イベントなど、さまざまなメディアを通して環境情報を発信しています。

皆さまとのコミュニケーションを通じて、環境への取り組みを一段と推進していきます。

環境情報の発信

各種媒体での情報提供

JR東日本は、1996年から発行していた環境報告書を、2002年からは社会環境報告書として、一層の情報開示に取り組んでいます。2003年からは、より広く配布するため報告書の環境ダイジェスト版も発行しています。また2004年には、グループ会社であるジェイアール東日本商業開発(株)が、グループ会社初の環境報告書を発行しました。

このほか、インターネットや新聞・雑誌、車内ポスターなどのメディアを通じて、積極的に情報を発信しています。¹

また社会環境報告書2004は、第8回環境コミュニケーション大賞²環境報告書部門において、「環境報告大賞(環境大臣賞)」を受賞しました。今回の受賞



2005年1月に行われた環境コミュニケーション大賞表彰式にて小池環境大臣から表彰を受け、より一層の取り組み推進への決意を新たにしました



電車内の中吊り環境広告「3分間エコゼミナール」

を受け、今後もさらにわかりやすい情報開示に努めるとともに積極的に環境コミュニケーションを推進します。

各種イベントでの情報発信

2004年もエコプロダクツ展に出展、JR東日本におけるリサイクルやインターモーダルへの取り組み、試験車両のACTレインや、NETレインのしくみなどを展示しました。

このほか、毎年自治体や企業などと連携して、環境情報の発信を目的としたイベントを共催しています。2005年3月には昨年度に引き続き、東京ガス(株)と「ガス&レールウェイ～第2回東京ガスとJR東日本が提案する環境への取り組み展～」を東京駅にて共催しました。両社の地球温暖化対策・省エネルギー・リ



エコプロダクツ展では、回生ブレーキのしくみを説明した模型や、研究開発中の車輪とモーターなどの展示も行いました



昨年に引き続き東京駅にて共催した「ガス&レールウェイ」

サイクルなどの取り組みを紹介したほか、環境省・全国地球温暖化防止活動推進センターの協力により、地球温暖化問題を体感できる展示品を紹介しました。

エコツーリズムの推進

JR東日本では、各地のすばらしい自然との関わりをテーマにし、自然を体験するさまざまな旅を提供しています。

2004年度は、日本で初めてユネスコ世界自然遺産として登録された白神山地の魅力を紹介する「第二回白神山地ブナの学校東京分校」を5月に開催し、「白神山地トレッキング」など関連ツアーには約1,500人の方々にご参加いただきました。

また、各地の駅から気軽に自然を楽しむ「駅からハイキング」も継続して実施しています。2004年度は、各支社でテーマ性を打ち出したコース開発を行い約400回実施、約24万人のご参加をいただきました。

ブナの森の大切さ、素晴らしさを、地元の案内人とともに体験する「白神山地トレッキング」



各支社で各地の魅力を引き起こして提供する「駅からハイキング」

1 JR東日本ホームページ：
エコロジーページ
<http://www.jreast.co.jp/eco/>

2 環境コミュニケーション大賞：
(財)地球・人間環境フォーラムが主催し、環境省が後援する環境報告書に関する表彰制度。国内においては最も著名な賞のひとつ。

地域と連携した森づくり

鉄道沿線からの森づくり

1992年からJR東日本グループ社員のボランティア活動の一環として、各支社で植樹を行い、地域の皆さまにも参加していただいています。2004年度までに約3.2万人が参加、24万本を植樹しました。

2002年度以降は、自治体などとのタイアップが増え、文字通り鉄道沿線から沿線の外へ拡大しています。

なお、ハイキングイベントと植樹を組み合わせたり、地域の小学校などと協力してドングリ拾いやポット苗づくりを行うなど、さらに多くの方にご参加いただけるよう、各支社で工夫して取り組んでいます。



「鉄道沿線からの森づくり」では、2004年度までに24万本を植樹しました

自治体などとのタイアップ開催状況 (2004年度)

支社	タイアップ・主催自治体
東京支社	川崎市川崎区など
横浜支社	神奈川県など
八王子支社	小淵沢町
大宮支社	戸田市
高崎支社	水上町など
水戸支社	茨城県など
千葉支社	千葉市
仙台支社	仙台市など
盛岡支社	盛岡市
秋田支社	秋田県
新潟支社	新潟市
長野支社	諏訪市

第2回 安達太良ふるさとの森づくり

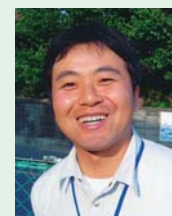
JR東日本では、自然への感謝の気持ちを持つとともに地球の未来に貢献するため、その土地固有の樹木を植えて森を再生させる活動を、2004年から福島県安達郡大玉村の国有地で始めています。スギを中心とした従来の人工林とは異なり、その土地本来の木である22種を選定。3



第1回よりも100人多い1700人が参加。地元との交流と植樹を楽しみました

年間かけて4万5,000本の苗木を自然に近いかたちで密植し、自然淘汰等を経ながら「ふるさとの森」をつくりあげていく計画です。

JR東日本グループ社員のほか、一般の方にもご参加いただくため、現地までの交通および昼食などをバックにした旅行商品を廉価で販売し、2回目となる2005年は前回より100人多い総勢700名の参加となりました。また、地元大玉村の皆さんにも多数ご参加いただくとともに、森づくり終了後は、大玉村の皆さんによる豚汁や特産品の販売、餅つき大会を開催していただき、参加者にとって旅の醍醐味である、地元の方々との交流も充実したものとなりました。



福島県安達郡
大玉村役場
藤田 良男さん

「今年は地元の参加者が前回の倍の120名でした。帰りの車中では『来年も植えたい』、『ずっと続けてほしい』など反響も大きく、参加した皆さんの笑顔が見られたのが何より嬉しかったです。」